

会 報

兵 小 長

第 164 号

令和6年7月5日
兵 庫 県
小 学 校 長 会

多様な考え方が進む中で
いきたくなる学校づくりをめざして

会 長
横 谷 義 秀



◆社会の大きな変化の中で

社会はソフト・ハードともに猛烈なスピードで変化しています。

様々な特性や背景を抱える人を含めたすべての人が能力を発揮できるダイバーシティの考え方が広まっています。

学校現場においては、育児短時間をはじめ働き方も多様化してきています。

◆増え続けている不登校児童

全国の小中学校を合わせての不登校児童生徒は平成二十四年度一・一万二六八九人でした。令和四年度には二九万九〇四八人とほぼ三倍に増えています。

◆価値観の多様化

不登校児童増加の要因として、必ずしも学校でなくても他に学べる場はある、また、無理をさせることはないなど考え方・価値観が多様化してきているということがあります。

◆教育機会確保法の成立

平成二十四年に教育機会確保法が成立し、

「登校という結果のみを目標にするのではなく、子供が社会的に自立することを支援していく」という考え方が学校現場にも浸透してきています。

◆不登校児童への支援

子供たちが安心して過ごせる校内サポートルームを設置し、その支援員を配置する学校が出てきています。一人一台端末を活用して、児童とのつながりや学習機会を確保している学校もあります。また、生活習慣の乱れにより、朝起きるのがつらい・しんどいといった子供たちに対して、神戸市の校長会では睡眠教育に取り組んでいます。

◆子供たちにつけてほしい力

このような社会で、子供たちに必要な力・育てたい力は、答えのない問題や課題に対して、自分の頭で考え、実行していく生きる力です。

◆個別最適な学びの充実

生きる力を養うためには、子供の時から自己選択・自己決定していく経験を積むことが大切であるといえます。その具体的な取組が個別最適な学びの

充実です。

個別最適な学びを大きく分けると以下の二つになります。

①「指導の個別化」一定の目標の達成に向け、個々の児童に応じて異なる方法等で学習を進めること

②「学習の個性化」児童の興味・関心に応じた異なる目標に向けて学習を深め・広げること

◆行きたくなる学校づくりをめざして

「学校に行ったら、これをしたい、あれができる」こんな気持ちになれる場面、つまり個別最適な学習の場を意図的に仕組んでいくことが子供たちのやる気を引き出し、一人一人が行きたくなる学校につながると考えます。

もちろん、これらの学び方は協働的な学びと一体的に進めていくものです。

兵小長七三九名の会員で知恵を出し合い、多様な考え方に対応する教育をめざし、「兵庫は一つ」ともに取り組んでいきたいと思います。
(神戸市立千鳥が丘小学校長)

役職定年を迎えて

令和五年度会長

小山 光一

◆四月から、学校現場から離れたところで仕事をさせてもらっています。

◆先日の総会でも紹介しましたが、世の中の十数%の人は好きなことを仕事にしています。プロ野球選手や芸術家がそうです。残りの八十数%の人は、好きなことと関係なく、生活していくために仕事をしています。

三月までの教員(校長)生活は、この十数%に入っていました。役職定年後の四月からは、八十数%の方へ移ったように思います。

◆役職定年後も大事にしているのが、「健康」「仲間・パートナー」です。何年前前の日本人二万人アンケートで、「お金より大切なものは何か」の調査がありました。そのトップ3は、「健康」「人間関係・共感できる仲間」「自己決定ができること」でした。

このアンケート結果を見てすぐに思ったのは、校長の仕事です。校長会には「共感できる仲間」がいます。「自分で決めること」もできます。そう考えると、校長には、お金より大切なものがいつもそばにあるのです。

◆これから私も、人生の先輩と同じように、自分の仕事を好きになれるよう努力し、みんなとともに歩みたいと思っています。学校を離れましたが、兵小長のさらなる発展とみなさまのますますのご活躍を願い、応援しています。
(前神戸市立東須磨小学校長)



丁寧な対応を

副会長 林 隆 浩

兵小長の仕事に関わらせていただいで三年目となります。兵庫県下各地の校長先生方と関わらせていただくことで各地域における様々な課題や取り組みについて教えていただくことができました。勤務している市のことしか知らなかった自分の世界が大きく広がりました。改めて感謝の気持ちでいっぱいです。

さて、コロナ禍が終わり当たり前の日常が戻ってきて一年が過ぎました。デジタル化が一気に進み便利な世の中になりました。そして、物事がこれまでに以上のスピードで進行するようになりました。ズーム等を使うことで打ち合わせもより効率的に進めることができるともなりました。ただ、コロナ禍が明けたこの一年間で感じたことは、人と人が直接出会い、相手の顔を見ながら話すことの大切さです。出会う話すことで、文字だけでは伝わらない様々な情報が伝わり、物事を円滑に進めることができます。本校の職員にいつも話しているのは「丁寧な対応を心がけましょう。丁寧に対応することが最終的には物事を解決する一番の近道です」ということです。

教育界は今、大きな転換期を迎えています。だからこそ、兵小長会員一同しっかりと連携を図り、「兵庫は一つ」を合い言葉に兵庫の教育推進に向け一歩一歩取り組んでいきましょう。

(伊丹市立池尻小学校長)

兵小長はいいもんだ

副会長 西 川 賢 次

本年度、副会長を拝命しました。兵小長の役員になって三年目、「思えば遠くへ来たもんだ」というのが今の率直な感想ですが、後悔は全くありません。覚悟を決めて励みますので、どうぞよろしく願います。

さて、私は岩谷時子さんが作詞をされた「ともだちはいいもんだ」という歌が大好きです。好きすぎて、替え歌を作ってしまった。どうぞお聞きください。

♪兵小長はいいもんだ／言いたいことが言えるんだ／悲しいときは励まされよう／兵庫はひとつさ／旧交会員になっても／忘れはしない／夢を大事に／君と進もう／ひとりはみんなのために／みんなはひとりのために／ひとりはみんなのために／みんなのために♪
「夢」とは「生きる喜びと夢をもち在りたい未来をともに創る子ども育成」、「みんな」とは七三九人の挑戦者たち。夢を夢のまままで終わらせないために、ともに手を携えてまいりましょう。そしていつの日か後輩たちに、胸を張って「兵小長はいいもんだ」と言えるよう、今、力を尽くしてまいりましょう！

※本稿と同じ内容を、代表者会「閉会のことば」で話しました。
(たつの市立香島小学校長)

二度とない子ども達の『今』を大切に

副会長 上 月 徳 子

兵庫県小学校長会総会にて、令和六年度の活動方針が承諾され、本格的な活動が始まりました。今年度は、第四期ひょうご「教育創造プラン」に鑑み、テーマの一部を「在りたい未来をともに創る子ども育成」と改訂しました。

「在りたい未来」とはどんな未来でしょうか。未来は子ども達だけでなくすべての人が有するものです。私にもあと数十年残されていると信じていますが、自身の在りたい未来はどういうものなのか、イメージすることが難しく、中々定まっていけないのが現状です。ただ、今の自分が在るのは過去の自分によるものだという事は、まぎれもない事実です。

「今日の自分は昨日までの自分によりつくられ、明日の自分は今日までの自分がつくる」
そう考えると、今のこの時がかけがえのない瞬間であり、大切な『今』が蓄積され、未来につながっていることを実感することが出来ます。今後、「在りたい未来」については、深く掘り下げることが涵養ですが、現状で、最も大切なのは、子ども達一人一人が自分の未来を自らの手でデザインしていくという主体性を育むことだと思えます。そのような子ども達を育てるためにも、校長は誰よりも遠くを見渡し、情報を活用し、学校全体を俯瞰していかねばなりません。子ども達の二度とない『今』に寄り添い、大切に時を紡いでいくためにも、「A.L.L.兵庫」でともに歩みを進めて参りましょう。

(姫路市立林田小学校長)

「変化」を楽しむ

副会長 飯 田 豊 和

「予測困難な時代」と言われます。コロナ禍で、同じような日常が当たり前でないことを学びました。IoTやAIロボットなど、情報活用技術の進歩は目覚ましく、想像をはるかに超えています。様々な変化の速さは不安を感じるのであります。社会の変化は保護者や子供の意識にも影響しています。学校も校長も「変化」は必然です。折しも「第四期ひょうご教育創造プラン」がスタートする今年度。「よりよく」の視点をもって、自ら変わる・変えるチャンスととらえたいと思います。校長が「未来」を見据えた学校の創り手となって、成長・進化・熟成となる「変化」を楽しみたいと思います。これまで学校は「変わらないこと」を大切にするあまり、前例偏重になっていたのではないかと反省があります。

先人の思いを継ぎながら、変化し創造する楽しさを教職員と共有し、「やりがい」にしていけることは人材育成にもつながります。子供たちの「ウェルビーイング」の実現を目的に、前例に縛られることなく、自由でのびのびとした学校風土・学校文化を育んでいきたいと思えます。

校長は孤独な立場。迷い悩むことも多々あります。その時こそ、「兵庫は一つ」環境も状況も違う「学校」の、個性あふれる「兵小長七三九人の仲間」がいます。笑顔を交わし合い、ともに課題に向かっしていきたいでしょう。

(神戸市立若宮小学校長)

人事給与委員会の活動について

人給委員長 田 口 智 章

中教審の特別部会が、教職調整額の引き上げや、勤務間インターバルの導入などを盛り込んだ提言をまとめました。教職が将来にわたり魅力ある職業であるには、安定した人材確保と処遇改善、そして、抜本的な働き方改革が急務です。そのためにも、教職員が生き生きと教育活動を推進し、持続可能で働きがいのある教育現場にしていくことが、今、求められていると強く感じます。人給委員会では、教育条件の整備及び教職員の処遇改善を柱として、以下の活動に取り組んでまいります。

【人給委員会の活動目標】

- 一 全連小・兵小長の活動方針を踏まえ、学校経営組織の充実強化を期し、教職員定数・学級編制基準の改善を図るための調査研究活動に努める。
- 二 調査研究活動によって兵庫県と神戸市の人事給与等の実態を把握し、「学校教育の水準の維持向上のため」の義務教育諸学校の教職員の人材確保に関する特別措置法」の堅持と職責に見合う処遇の改善に向けた取組を進める等、課題の解決に努めるとともに、全連小・近小協の活動に協力する。
- 三 人事給与に関する研修会を実施し、人事給与に関する事項の周知を図り、教職員の意識改革、意欲向上に努める。

【具体的目標】

- 一 兵小長関係
ア主幹教諭や加配教職員、六十歳以降教職員の配置状況、へき地校の実態等の調査を行い、教育環境充実に努める。

イ教職員人事給与と制度の現状と今後の課題についての研修会を実施する。

二 近小協関係

ア近畿各府県と人事給与等に関する資料を交換し、情報の把握に努める。

イ校長と教頭の年齢・経験年数、給与と制度等の実態調査を行い「調査研究第六十三集」の編集に協力する。

三 全連小関係

ア他府県と教育諸条件整備等に関する資料を交換し、情報の把握に努め、活動の充実発展に資する。
イ全連小の諸調査に協力する。

【人給委員会の組織】

- 副会長 上月 徳子 (中播磨)
- 委員長 田口 智章 (中播磨)
- 副委員長 北井 良 (阪神)
- 庶務 三輪 健一 (中播磨)
- 辻 丈治 (神戸)
- 横田 丈治 (阪神)
- 別府 義文 (播磨東)
- 上田 穰 (西播磨)
- 藤本 新吾 (但馬)
- 安井 健二 (丹波)
- 山本 浩一 (淡路)

支部委員 四十六支部から各一名

(姫路市立荒川小学校長)

調査広報委員会の活動について

調査委員長 横山 康文

現在の学校現場における教育課題は、豊かな学びの創造はもちろんのこと、増加するいじめや不登校等への対応、地域とともにある学校づくりの推進等、複雑化・多様化しています。それに対応するためには、的確な情報収集、迅速かつ正確な情報発信が重要です。調査広報委員会は、「生きる喜びと夢をもち 在りたい未来をともに創る子どもを育成」という兵小長活動方針の具現化を目指し、以下の調査広報活動に全力で取り組みます。

【調査広報委員会の活動方針】

- 一 全連小・兵小長の活動方針を踏まえ、直面する教育上の諸問題についての調査活動を実施する。さらに、必要が生じた場合はこれに加えて随時調査を行い、実践的な研究活動を推進する。
- 二 兵小長の目標達成に必要な会報・資料等による情報の提供や、ホームページ等による広報活動を推進し、会員相互の連携強化を図るとともに、活力に満ちた魅力ある学校づくりに努める。

【具体的目標】

- 一 兵小長関係
ア県及び市町教育委員会への要望事項をもとに、兵小長会員の実態把握に関するアンケート調査を行う。
その結果を県教育委員会との教育懇談会準備委員会に提供し、会員の要望を反映するように努める。

イ会報「兵小長」一六四号・一六五号・一六六号を編集発行する。

ウ兵小長ホームページの更新・充実を本部事務局と連携して行う。

エ各地区・支部における会員の声や教育に関する課題等を、アンケート調査によって収集・分析・発信することにより、会員の交流を図る。

オ転学児童に関する情報交換を正確かつ迅速に行う。

二 近小協関係

小学校教育推進上の課題に関する資料や会報を交換し、近畿各府県の情報把握に努める。

三 全連小関係

ア「小学校時報」「研究シリーズ」「特色ある学校便覧」等への寄稿に協力し、それらの購読を積極的に推進する。

イ全連小ホームページへの「特色ある学校紹介」に三年間に一回、六校を推薦して掲載をする。
ウ全連小の諸調査に協力する。

【調査広報委員会の組織】

- 副会長 西川 賢次 (西播磨)
- 委員長 横山 康文 (播磨東)
- 副委員長 梶原 秀規 (但馬)
- 広報部長 崎川 孝一 (神戸)
- 調査部長 藤原 正伸 (播磨東)
- H P担当 篠原 弘充 (西播磨)
- 本部委員 藤田 洋子 (阪神)
- ” 土居 正人 (中播磨)
- ” 小林 義則 (丹波)
- ” 脇田 真澄 (淡路)

支部委員 四十六支部から各一名

(三木市立平田小学校長)

長 小 兵

全連小徳島大会

五年ぶりのフルスペック地方開催に向けて

庶務部長 山田 知之

第七十六回全国連合小学校長会(以下全連小)研究協議会は、本年十月二十四日(木)・二十五日(金)の両日、アステイトくしまを全体会場として、地方における五年ぶりのフルスペックでの開催となることが予定されており、昨年度の東京大会は、全連小七十五周年となる節目の開催でしたが、今大会は、全連小の次代に向けた新たなスタートともいえる大会になります。

新学習指導要領全面実施となった令和二年度より、研究主題は、「自ら未来を拓き、ともに生きる豊かな社会を創る、日本人の育成を目指す小学校教育の推進」として、その実現を目指して取組を進めてきました。

今大会の副主題は「夢と志を持って多様な人々と協働しながら、持続可能で豊かな未来を切り拓いていく人材を育む学校経営の推進」と設定されています。我々校長は、子どもたちが大きな夢や高い志を持って、主体的な課題解決に取り組み、多様な人々と力を合わせて解決していく力と、社会の中でもに生きる実践的な態度を育んでいかなければなりません。開催地の徳島県では、これまでグローバルな視点と地域(ローカル)の視点を兼ね備えた「グローバル人材」新たな視点をもとに、自分の将来をしっかりと見据え、持続可能で豊かな未来社会を切り拓いていく担い手」を育成してこられました。今大会を通して、徳島県や全国各地の実践例に学び、学校経営の責任者

である校長の果たすべき役割と指導性を究明していくために、次の五つの研究領域のもと、十三の分科会に分かれて研究協議が行われます。

- I 学校経営(経営ビジョン、組織・運営、評価・改善)
- II 教育課程(知性・創造性、豊かな人間性、健やかな体)
- III 指導・育成(研究・研修、リサーチ育成)
- IV 危機管理(学校安全、危機対応)
- V 教育課題(社会形成能力、自立と共生、社会との連携・協働)

五月二十四日の全連小総会で「自らの使命を強く自覚し、志高く挑戦し続け、子供たちと学校の未来を見据えたビジョンをもち、確かな判断力と決断力をもって実行し、信頼に応える校長会として会員の総力を結集」という宣言がありました。また、五月十六日に加古川市民会館で開催された兵小長総会・研修会では、県下各地よりご参加の皆様とともに、「兵庫は一つ」を再確認し、ともに進む思いや絆をさらに深めることができました。

徳島大会に参加の皆様が、徳島県をはじめ全国各地の先進的な取組や小学校教育の方向性を各地区に広めていただき、各校で、新たな学びへの進化を図る学校運営や教育活動がさらに推進されていくことを願っています。
(神戸市立長田南小学校長)

経営委員会の活動について

経営委員長 藤山 昌生

兵小長研究大会は、昨年度の丹波大会(東ブロック)に続き、今年度は西ブロックの校長が中播磨に集い、日ごろの実践交流を行います。今後も研究大会は、東西交互開催で進めてまいります。各分科会において各校の取り組みを情報交換し、今後の学校経営に生かしていただきたいと思っております。

【経営委員会の活動目標】

- (一) 全連小・兵小長の活動方針を踏まえ、教育諸課題の解決に向けた実践的研究を推進し、創意工夫した教育活動及び学校経営の実践交流(研修・情報交流)を通して、活力に満ちた魅力ある学校づくりに努める。
- (二) 学習指導要領の趣旨を踏まえて、「社会に開かれた教育課程」の実現に取り組み、小学校教育の充実に努める。
- (三) 確かな学力の定着を図るとともに、豊かな心・健やかな体を育て、教育課程全体を通じて「生きる力」の育成に努める。
- (四) 家庭・地域社会及び関係機関との連携を一層密にし、安全・安心な教育環境づくりに努める。

【具体的目標】

- (一) 第七十五回兵庫県小学校長会研究大会(中播磨大会)を意義ある研究協議の場とする。
- ア 全連小研究主題を受けて、「夢をもち 未来を創る 心しなやかな子ども」の育成」を研究主題として研究を進める。

イ 今後の学校経営に生かせるよう、研究大会の成果や課題をまとめ、「経営紀要第五十五集」を発行する。

- (二) 第七十六回全連小研究大会(徳島大会)への参加。第七十五回近小協(奈良大会)への参加。

【第七十五回兵小長研究大会について】

- (1) 研究主題
「夢をもち 未来を創る 心しなやかな子どもの育成」
- (2) 期日・会場
十月二十二日(火)
姫路市民会館
- (3) 参加対象 東ブロック
(播磨東、中播磨、西播磨、但馬)
- (4) 分科会・研究領域
①学校経営 ②教育課程
③現職教育 ④生徒指導
⑤人権教育 ⑥健康教育・食育
⑦特別支援教育 ⑧教育課題

【経営委員会の組織】

- 副会長 林 隆 浩(阪神)
- 事務局次長 喜多川 昌之(阪神)
- 委員長 藤山 昌生(阪神)
- 副委員長 藤堂 淳志(淡路)
- 高 森 隆子(播磨東)
- 委員 山下 真(神戸)
- 潮田 真知子(阪神)
- 岩本 充洋(播磨東)
- 加茂田 頼子(中播磨)
- 安西 浩美(西播磨)
- 藤元 雅之(但馬)
- 梅垣 泰三(丹波)
- 岡 知史(淡路)
- 支部委員 四十六支部から各一名
(宝塚市立売布小学校長)